

2 令和7年度 学校関係者評価書

福岡県公立古賀竟成館高等学校長 殿

福岡県公立古賀竟成館高等学校 学校関係者評価委員会

委員長 高原 友彦
委 員 横田 浩一 委 員 藤井 史子 委 員 濱 秀樹 委 員 山内 公平

学校関係者評価委員会の評価結果を次の通り報告します。

公

学 校 運 営 計 画					評価（3月）		自己評価に対する学校関係者評価委員会の評価
教育指導基本方針					① 校訓「自主 友愛 練磨」を体現し、社会を生き抜く力を修得させる。 ② 竟成館五箇条教育を推進し、五箇条に沿う人間力を育成する。 ③ 職員の協働性と教育活動への意欲を高め、学校の課題解決を図るために、働き方改革を推進する。 ④ 創立70周年に向けて、地域に根ざした伝統校としての足場を固め、生徒の自尊心和愛校心を育成する。		
昨年度の成果と課題		年度重点目標		具 体 的 目 標			
【成果】 (1)Chromebookがさらに200台導入され合計400台が稼働可能となり、1・2学年に一人一台端末として貸し出し3学年にはiPadを活用する環境が整備された。 (2)様々な地域連携活動により地域に貢献する生徒が増加した。学校の魅力化推進、広報活動の充実、入学者選抜改革により、推薦入学者選抜による志願者が増加した。 (3)いじめ不登校対策委員会によりいじめ防止対策や長期欠席生徒に対して組織的に対応することができた。 (4)探究活動の充実及び校外模試結果分析に組織的に取り組み、進路指導の充実に努めた。 (5)学校行事や特別活動をととして生徒の主体性・協働性の伸長と愛校心の高揚がみられた。 【課題】 (1)Chromebookが1・2学年に一人一台端末として配備され調べ学習に多く活用された。今年度も200台が配備され3学年まで稼働可能となる。今後は生徒同士が情報を共有し評価する事にも活用場面を広げる。 (2)高等学校DX加速化推進事業が採択され1学年に実施した。総合的な探究の時間と組み合わせ、生徒同士協力しながら活動を進めたり他者と協働して物事へ取り組む力をより一層育成することができた。次年度以降は2・3年次への継続と進路実現へと推進する。また、新1学年の指導へと継続し改善を繰り返しながらデジタル人材育成プログラムへと発展・確立させる。 (3)生徒の希望進路の実現を図るために、就職を含め年内に実施される総合型・学校推薦型上級学校入試と一貫入試まで見据えた進路指導を構築する。 (4)部活動の活性化と働き方改革の観点から、実効的な部活動指導体制の構築に努める。		(1) 安全に安心して学べることができ質の高い学習環境づくりを実現する。 (2) 自律的学習者の育成を念頭においた授業改善と教育活動を展開する。 (3) 地域に学び、地域に貢献し、将来地域の担い手となる生徒を獲得し、育成する。 (4) 学校全体で生徒の自己実現を支え、3年間を見通した進路指導体系を構築する。 (5) 生徒自身に自らの在り方・生き方を考えさせる生徒指導を推進する。 (6) 行事等の見直しによって、職員の働き方改革を推進する。		・ 正副担任制における役割分担の明確化により、学級運営及び分掌業務の効率化を継続し組織的に生徒一人一人の多様性に配慮した個に寄り添う指導の質的向上を図る。 ・ 新たな時代に即した道德教育・人権教育を推進し、「ほめて伸ばす」教育活動を展開する。 ・ 一人一台端末の効果的活用を進め、DX推進事業の継続を図り、生徒の興味関心を高める魅力ある授業や学校行事を作り上げる。 ・ 学校生活や人間関係等に悩みや不安を抱える生徒の把握に努め、いじめ不登校対策委員会や学年会議をととして教員の共通理解・共通認識を図り指導にあたる。 ・ 普通科特進コース・進学コース・BDコース、総合ビジネス科のそれぞれの特徴を活かした進路実現を図るため、個別最適な学びの実現へ授業改善を進める。 ・ 授業アンケート、学習時間調査等を通じて生徒の実態把握と指導の改善を積極的に行う。 ・ 志願倍率の向上を図るために、推薦入学者選抜の見直しを継続的に行うため、組合内中学校および塾との連携を強化する。 ・ 新聞・テレビ等のメディア、学校HPやSNSツールを活用して、本校の魅力を広く発信する戦略的な広報活動を展開する。 ・ 古賀市・福津市・新宮町との連携、および地域の小・中学校との連携を通じて、生徒に地域の課題に目を向けさせ、探究的な学習の充実を図る。 ・ 進路指導の充実を図るため、3年間を見通した進路指導体系を構築し就職を含めた年内入試(総合型・学校推薦型選抜入試)の特徴を把握し学校全体で生徒一人一人の希望進路実現を支援する。 ・ 国立大学の情報収集および小論文を含めた入試問題研究を積極的に推進し、生徒に自らの可能性に気づかせ最後まで第一希望進路実現に向かわせる。 ・ Classi・Classroom等の活用し個別最適な学びや自主学習の推進をととして上級学校への進学を促進する。 ・ 総合的な探究の時間の充実をととして、協働性・表現力・行動力を高め様々な入試に対応する実践的な学力を高める。 ・ 生徒が主体的に企画・運営を行う学校行事を実現する。生徒に「望ましい在り方・生き方」を自律的に考えさせ、自ら変えていこうとする行動や態度を育成する。 ・ 創立70周年に向けて、愛校心と自尊心を育成するために「竟成館五箇条」に沿った取組を生徒会等に自ら企画・立案させ学校全体で取り組む。 ・ 行事の精選を図り、4部による分掌間の連携を図ることで業務負担の偏りを軽減する。 ・ 部活動指導体制の再考と業務の精選・見直しを積極的に推進する。			
部 課	具体的目標	具体的方策		評価		本年度の成果と次年度に向けての課題	
教 務	学 務	生徒一人一人に最適な学習環境を整える。	生徒一人一人の多様性に配慮し、個に寄り添う指導を目指す。 1人1台端末の効果的活用を進め、DX推進加速化を図り、生徒の興味関心を高める魅力ある授業を作り上げる。	B B	B	全生徒が授業でChromebookを持ち、活用する場面が増えており、今後も効果的な授業を展開していく。研修課、情報課と連携し教員のICT活用に関する知識や技術を学ぶ場を提供し教員のさらなるスキル向上を図る。生徒の学力を伸ばす観点別評価の在り方について見直す部分（評価割合、評価項目、評価規準等）がないか各教科と共に検討を続ける。	
		自ら進んで、協働し、更なる成長を目指す生徒の育成	授業改善アンケート、学習時間調査で生徒の実態把握と、生徒の実態にあわせた指導改善を積極的に行う。 各教科、観点別評価の見直しを行ってもらい、より生徒が意欲的に学べる評価を目指す。	B B			
	研 修	指導力を高め、より質の高い授業を実践する。	授業公開週間や授業研究会を通じて授業力向上を図り、教育センター等で実施されるキャリアアップ講座などへの参加を促す。 若年教員(教諭・講師)や教育実習生への指導を充実させることで、次世代の教育者を育成し学校全体の活性化につなげる。	A A	A	各分掌からの要望に応じて柔軟に職員研修会を企画・実施し校内の課題解決や教員のスキル向上に資する機会を設けることができた。今後もより実践的で効果的な学びの場となる研修を目指す。学期ごとにも実施している人権教育は一定の成果が見られた。教職員の人権に関する理解と態度を高める研修を実施し、生徒への指導と教職員の学びを両面から強化することで、学校全体の人権意識の向上を図る。	
		社会の多様な課題に対応した教育活動を推進する。	ICT機器の活用など現在の社会の動向に対応できる研修会を実施する。 各学期、各学年ごとのテーマに沿った人権教育授業を実施する。	A A			
	情 報	教育の情報化推進	ICT活用を促進し、職員のスキルアップを目指す 生徒の一人一台端末の利用を実践している先生を講師として、活用法を共有化する。	B B	B	Chromebookは総探や進路に関する調べ学習等で活用が期待できる。特に調べた内容をスライドにまとめて発表する形態は今後の生徒の進路において必ず役に立つ。研修課と協力しICT支援員による職員研修会において教員が一人一台端末環境でできることを学び授業や業務での活用を促していきたい。	
		情報機器やネットワーク・アカウント等の管理	電子黒板やタブレット等、情報機器の適切な管理および使用促進に努める。 業務効率向上に繋がるソフトを管理・整備し、職員の負担軽減に努める。	B B			
徒	生 徒 支 援	自主的・自律的な規範意識の育成	社会人としての自身を想像させ、学校内外を問わず竟成館生徒としての誇りや自覚を芽生えさせ、マナー・ルールを守ることの意義について考えさせる。 各学年が互いに協力し、連携を図りながら生徒への不自信を生まない生徒指導を行っていく。 生徒会の更なる活性化を目指し、様々なことに積極的に取り組む力を養う。	A A B	A	例年より規範意識の低下を感じることが多くみられた。竟成館五箇条(挨拶・清掃・校歌・人を大切にする・時間管理)を伝え続ける。本校の魅力の一つである教員と生徒の距離が近いというメリットを最大限に生かして、学年・クラスでの目く環境づくりを作り上げていきたい。魅力ある学校、中学生が通いたい学校であるためににも強化指定部を中心に部活動の活性化をより一層図っていきたい。	
		生徒が主体となり企画・運営を行う学校行事の実施	部活動の活性化を目指し、強化指定部を中心として学校の機軸となれる生徒を育成し、各行事などに積極的に参加させる。	B			
		保健安全	検診のスムーズな運営と教育相談の充実 防災避難訓練、熱中症対策指導の実施と充実 清掃活動の徹底と用具の整備・管理 施設整備の点検と整備	A A B B			
	進 路 支 援	自己管理能力を向上させ、自身の進路実現に向けた取り組みを計画し、実施する姿勢の育成	手帳やClassiの学習記録の入力を通じて、生活習慣・学習習慣・学習方法の振り返りと改善を促す。 進路ガイダンスや講演会を通じて、進路に関する様々な選択肢を理解し自身の進路を決定させる。	B B	B	全学年で家庭学習時間を各クラスで確認し生徒の学習状況を把握した。また、バ'ね'から模試結果の意見をいただき各学年で生徒の学習・成績状況を共有した。今後の定期考査や模試成績向上へつなげる。早期に学部学科探究・職業探究を行い国立大学の多様な学問分野への興味関心を持たせる。来年度は早期に受験生としての自覚を持たせるために2年2学期保護者会にて「志望校宣言」をさせる。	
		進路実現に必要な学力の定着と向上を図るための手立ての検討と実施	各種模試の結果や入試問題の分析を行い、生徒に寄り添った指導を行う。 小論文指導を充実させ、論理的思考力・判断力・表現力を向上させる。	B B			
		総 探	探究活動の充実を図り、幅広い教養の獲得 多様な情報の整理や分析を行い、課題発見・解決能力の向上を目指す。	B A			
総 務	庶 務	学校行事・式典の円滑な実施	学校行事・式典において、各分掌・学年の調整をする。 P・T・Aが円滑に活動できるよう支援する。同窓会活動の活性化を促すための支援をする。	A A	A	学校行事・式典の起案は概ね2ヶ月前に行うことができた。室内での体育祭は2年目であるが、まだまだ改善すべき点があるので来年度もPTAや同窓会、保護者等と協力していきたい。	
		P・T・A活動、同窓会活動の活性化	体験入学における分科会で、少数人数での体験活動を実施することによって参加者一人ひとりに本校の魅力を伝えられるようにする。 学校訪問において中学校と密に情報交換を行い、第一志望生徒を増やす。	A A			
	広 報 戦 略	広報行事において1000名以上の参加、及び本校第一志望生徒の増加	学校紹介パンフレットや各ポスター等を作成し、本校の魅力を発信する。 ホームページのページの整理や「よくある質問」ページを用意し、ホームページがより良く機能するように改善する。	A C	B	2回の体験入学で参加者1,145名を獲得し目標の1,000名を達成した。申込方法の改善により集約もスムーズになり、アンケート結果からも概ね高い満足度が得られた。学校公式インスタグラムについても生徒の協力を得ながら発信を行った。一方でHPの整理・改善が十分に進まなかったことは課題である。次年度は広報業務の人員体制を見直すとともに、HPの整理やInstagramの他分掌・部活動からの発信拡大、宗像地区への広報強化により第一志望生徒の増加を図る。	
		本校ホームページやInstagram、竟成館たより等により情報を外部への積極的発信					
	学 年	第 1 学 年	基本的な生活習慣の確立	元氣な挨拶、身だしなみ、清掃に関して意識の高い生徒の育成。 時間を守るなど自らを律することのできる生徒の育成。	B B	B	清掃や朝読書に自ら取り組み生徒が多く元氣のよい挨拶も見られたが、年度後半にかけて時間や規律に対してルーズになる傾向があった。家庭学習時間には個人差が大きく1学期の欠点保持者も多かったため、部活動との両立を含めた学習習慣の定着が課題である。次年度は入学時のオリエンテーションでの校則・ルールの徹底と日頃の小さな指導の積み重ねにより基本的生活習慣の確立を図るとともに、コミュニケーション能力を生かしたつ適切な人間関係の構築を指導していく。
			学力・進路意識の向上	家庭学習（予習・復習など）の習慣を身に付けさせる。 ホームルームや総合的な探究の時間を通じて様々な進路に関して興味・関心を醸成させる。	B B		
自己指導能力の育成			生徒一人一人に目標を設定させ、学校生活に対する意欲を向上させる。 計画的な生活を送らせ自己評価し、行動に反映させる。	B B			
第 2 学 年		学力と社会性の向上	学習習慣を定着させ、具体的な目標を持たせる。 他者に対する思いやりや感謝の心を持たせ、集団内での役割を実行させる。	B A	B	基本的な生活習慣がほとんどの生徒に身についており、皆勤賞80名の目標も達成した。生徒がそれぞれ目的意識を持って学校生活に臨んでいる。次年度は最高学年として進路目標の実現を第一に、模試結果の分析を通じた自己課題の把握と必要な学習時間・学習内容の自覚を促し、第一志望合格に向けた学習の継続とモチベーションの維持を図る。鶴翔祭や体育祭等ではリーダーシップを発揮させ、普段の生活態度に裏打ちされた行動力を育成する。	
		進路実現に向けた意識軒昂と学力向上	合格に向けてのスケジュールを作成し、毎日の継続した学習を計画的に進めさせる。 学習時間の確保とその記録をさせ、評価と反省を活かすことの大切さに気付かせる。	B B			
		多様なリーダーの育成	最高学年であることを常に自覚した行動ができるようにする。 個性と特性を活かしたリーダー育成に努める。	B A			
総合ビ'ジ'ネ'ス'科	全商三種目以上1級取得率40％	3年間を見据えた指導計画、指導体制を確立し、上級にチャレンジして合格させる。	A	A	全商三種目以上1級取得率40%の目標を達成し、日商簿記検定2級9名・日商リテールマーケティング検定2級4名が合格するなど高度資格取得に成果を上げた。コース制による意欲的な学習やきめ細かな指導が実を結んでいる。依頼を受けた中学校への出前授業も全て実施できた。次年度は各科目に留まらず多種目合格・高度資格取得を目指し、ネット試験の活用による計画的な受験指導の充実を図るとともに、総合ビジネス科の特長や進路実績等のPR活動を強化する。		
		部活動との両立を意識させて、日常の学習を習慣化させる。	A				
		出前授業や校内体験授業等に積極的に取り組み、学科の特長や資格取得、進路状況等の説明を行う。	A				
		中学校(地域)へのPR活動の充実	A				
		校外行事に積極的に参加する。	A				
			A				

自己評価及び学校関係者評価委員会の評価をもとにまとめた改善策(項目を設定して、箇条書きで記入すること。)

1. 学校の魅力発信と生徒募集の強化
・ ホームページのリニューアルを実施し、学校案内・部活動・学食等の情報を見やすく整理するとともに、SNSを活用して生徒目線での日常的な情報発信を強化する。
・ 体験入学参加者を受験につなげるため、中学生が「ここに行きたい!」と思える体験内容の充実と、体験入学後のフォローアップを強化する。
・ 古賀市を中心としたボランティアイベント参加を福津市・新宮町にも広げ、宗像地区への広報活動を強化することで生徒獲得を図る。
・ 授業中や式典での生徒の姿勢が非常に良く、本校が素晴らしい学校であることが伝わってくるので、様々な場での生徒の様子をSNSで発信し、本校の魅力を広く周知する。

評価項目以外のものに関する意見

県立高校との同一日程の入試や私立高校の授業料実質無償化の影響により、本校の生徒募集は厳しい局面にあるが、本校固有の良さを再認識し、それを中学生や保護者に伝える工夫を早急に講じるべきであるとの意見があった。
また、消防士や大学進学者など、社会で活躍する卒業生を招いた講演会を実施し、在校生にロールモデルを示すことで進路意識の向上と愛校心につながるのでは?との提案があった。